

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成28年度病虫害発生予報第7号(10月)について

このことについて、病虫害発生予報第7号を発表したので送付します。

予報第7号

チョウ目害虫及びタバココナジラミの防除を徹底しましょう

例年9月から11月にかけては、オオタバコガ成虫のフェロモントラップ誘殺数が年間で最も多くなる時期です。したがって、産卵数、幼虫の発生数も年間で最も多くなります。

本年は8月末以降、誘殺数が急増しています。向こう1か月の気象予報でも、平年に比べて気温が高いとされており、今後の多発が懸念されます。

また、冬春キャベツや冬春ダイコンの定植(播種)時期であり、コナガやアオムシについても多発が懸念されます。さらに、本年の8~9月はダイズの白変葉の発生が例年より多く、今後ハスモンヨトウが冬春野菜でも多発することが予想されます。

これらチョウ目害虫は、9~11月が冬春野菜における重要な防除時期ですが、本年は特に防除を徹底しましょう。

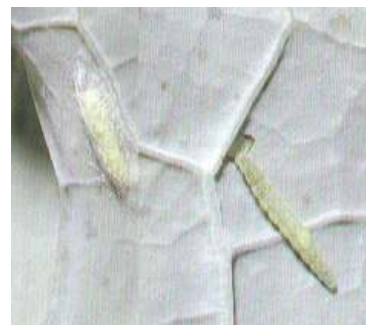
加えて、タバココナジラミのトマト苗トラップでの誘殺数が急増しています。本虫は各種ウイルス病の媒介等の被害を発生させるため、併せて防除を徹底しましょう。



オオタバコガの卵
(直径0.4mm程度のまんじゅう型)



オオタバコガの老齢幼虫



コナガの蛹(左)と幼虫(右)



ハスモンヨトウの卵塊



孵化直後のハスモンヨトウの幼虫



タバココナジラミの成虫

<予想される向こう1か月の天候（平成28年10月1日～平成28年10月30日）>

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年より高く、2週目は平年並、3～4週目は平年並か高いでしょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間（数値は予想される出現確率）

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低20 並30 高50% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み

（福岡管区气象台 平成28年9月29日発表抜粋）

10月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (10月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
大豆	吸実性カメムシ類	少	少	少
カンキツ	ミカンハダニ	少	少	並
カキ	炭疽病	少	やや少	やや少
果樹共通	チャバネアオカメムシ	*多	—	*多
冬春イチゴ	うどんこ病	並	並	やや多
	炭疽病	並	やや多	やや多
	ハダニ類	やや少	並	並

*果樹共通・チャバネアオカメムシの平年比について、現況は年次変動が大きいため前年比としている

作物別発生予報

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

【普通作物：大豆】

1 吸実性カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

主要3種カメムシ（アオカメムシ、イモジカメムシ、ホソカメムシ）

25株当たり払い落とし虫数 0頭（平年 0.87頭、前年 0.55頭）

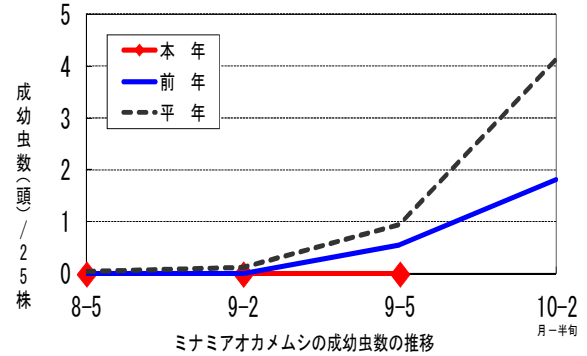
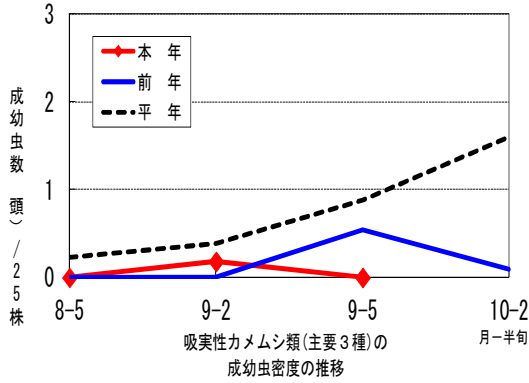
発生ほ場率 0%（平年 27.7%、前年 18.2%）

ミナミアオカメムシ

25株当たり払い落とし虫数 0頭（平年 0.95頭、前年 0.55頭）

発生ほ場率 0%（平年 18.4%、前年 18.2%）

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 吸実性カメムシ類の加害は収穫期まで続くので、必ずほ場での発生状況の把握に努め、発生が多い場合は防除を行う。
- イ 薬剤散布を行う場合には、薬剤が着莢部によくかかるように丁寧に散布する。
なお、カメムシ類は広範囲に移動するので、広域一斉防除の効果が高い。
- ウ 10月に発生量が急増する場合があるので、発生状況には十分注意する。
- エ 農薬の使用および散布等にあたっては、p 8の内容を確認の上、適切に実施する。

【果樹：かんきつ】

1 ミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半月調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

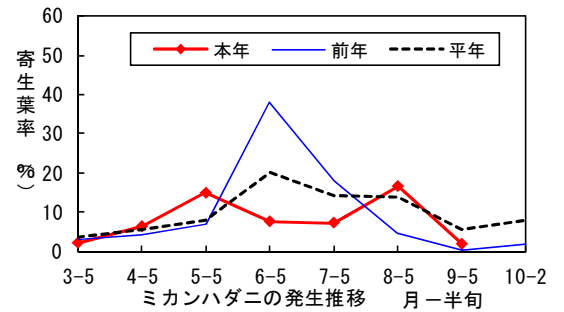
寄生葉率 2.0%（平年 5.6%、前年 0.5%）

発生ほ場率 10.0%（平年 45.0%、前年 27.3%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや少発生の条件となっている（－～±）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 果実に寄生が認められる場合は、薬剤防除を実施する。
- イ 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- ウ 薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 8の内容を確認の上適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



【果樹：かき】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 9月5半月調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

発病枝率 0.06%（平年 0.23%、前年 0.17%）

発生ほ場率 9.1%（平年 13.4%、前年 16.7%）

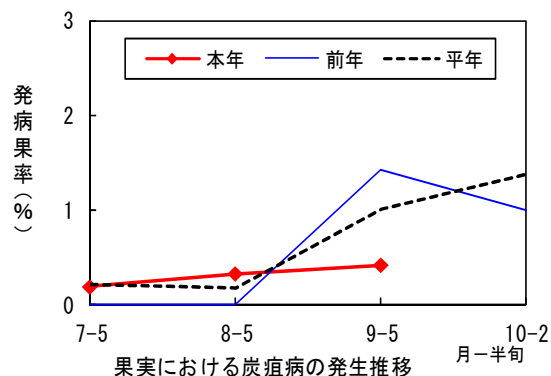
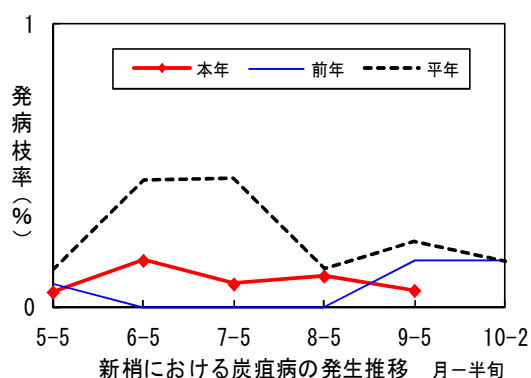
発病果率 0.4%（平年 1.0%、前年 1.4%）

発生ほ場率 36.4%（平年 39.2%、前年 50.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 伝染源となる罹病枝や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。
- イ 連続降雨があった場合や前年の発生が多かった園では、薬剤防除を徹底する。



【果樹共通：チャバネアオカメムシ】

(1) 予報の内容

発生量：前年より多、前々年並

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は平均0.8頭（前年0.9頭、前々年4.8頭）で、前年並であった（±）。

チャバネアオカメムシの越冬量およびヒノキ球果着生量の年次推移

	平成28年	平成27年	平成26年
越冬量(頭/㎡)	0.8	0.9	4.8
ヒノキ球果着生量	やや少	やや少	中

イ 9月1半旬～4半旬までのフェロモントラップでのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は、前年より多かった（+）。

誘殺虫数：112頭（前年 7頭、前々年 237頭）（調査地点：筑紫野市）

ウ 9月1半旬～4半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は、前年より多かった（+）。

誘殺虫数：1,601頭（前年 84頭、前々年 916頭）（調査地点：筑紫野市）

632頭（前年 113頭、前々年 91頭）（調査地点：久留米市）

841頭（前年 7頭、前々年 122頭）（調査地点：飯塚市）

626頭（前年 307頭、前々年 471頭）（調査地点：八女市）

エ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発生は地域差が大きく、同一園内でも被害状況が異なるので、特に飛来が毎年ある園は園内を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- イ 果樹カメムシ類は、夜行性であるが夜温が低下すると昼間も移動し果実を吸汁加害するので、昼間の果樹園への飛来にも注意する。
- ウ 果樹カメムシ類は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。
- エ 薬剤防除の際は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。
- オ 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。
- カ 最新の発生状況については、病虫害防除所ホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (10月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かき フジコナカイガラ ムシ	少	少	少	・現在、フジコナカイガラムシ第3世代の齢期は揃っていないが、農薬散布を行う場合は園内を見回り、できるだけふ化幼虫の比率が高い時期に行う。

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0% (平年 0.1%、前年 0%)

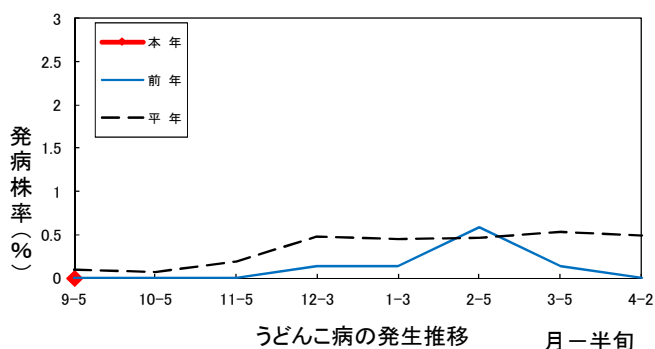
イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 不要な下葉は早めに除去する。防除は下葉かぎ後に行うと効果的で、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イ 9~11月は発生が増加しやすい時期なので、定植後からビニル被覆までの時期を重点的に防除を行う。薬剤については、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

ウ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p8の内容を確認の上、適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。



2 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

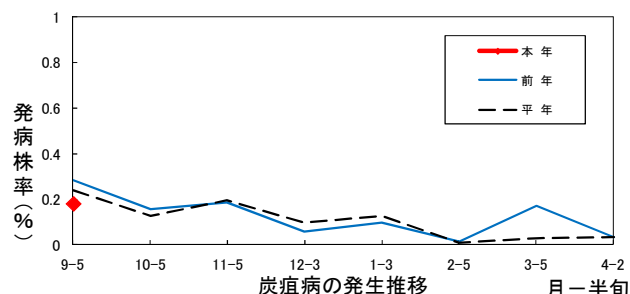
発病株率 0.18% (平年 0.24%、前年 0.29%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は、残渣を残さずに周囲の土ごと掘り取り、速やかにほ場外に持ち出し処分する。

イ ハウス内の排水を図り、多湿にならないようにする。



3 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

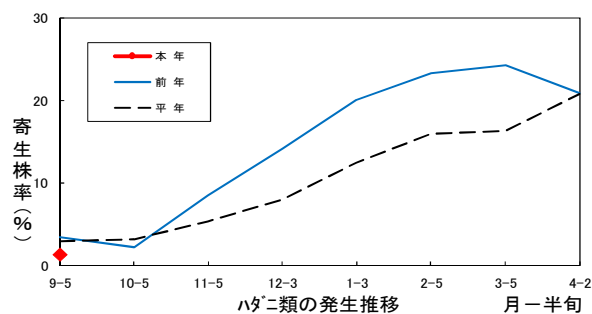
ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-~±)。

寄生株率 1.3% (平年 3.0%、前年 3.4%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

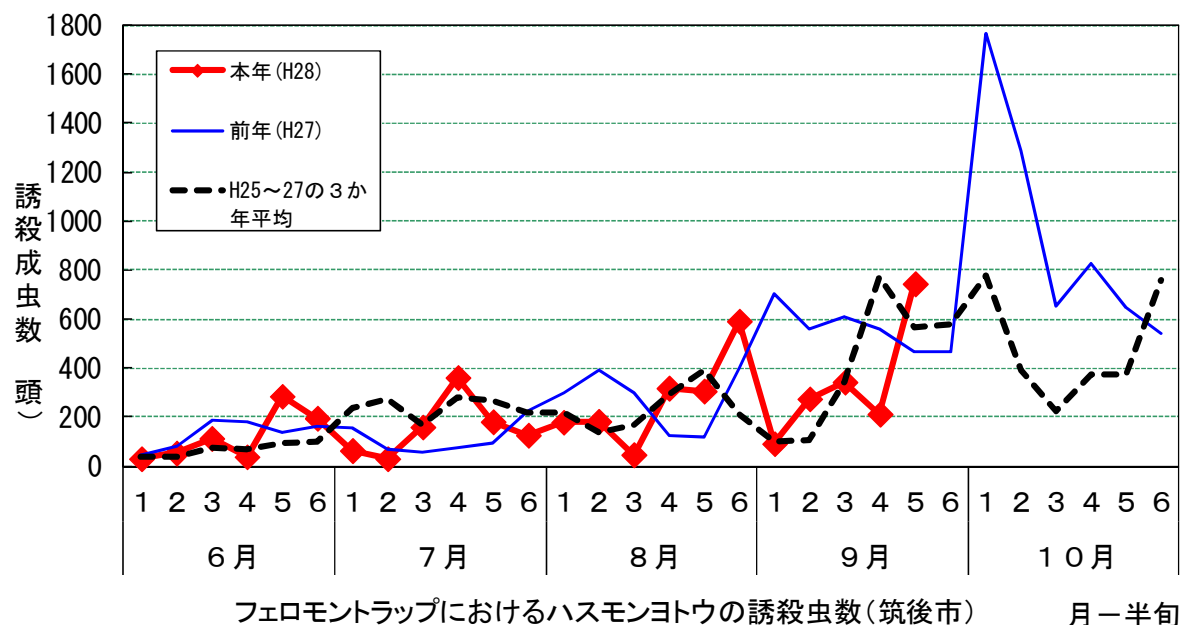
ア 本ぽではビニル被覆後に多発しやすい。多発後は防除が困難になるので、被覆までの防除を徹



- 底し、初期密度を低下させる。
- イ 抵抗性がつきやすいので、気門封鎖剤も利用し、同一系統薬剤の連用は避ける。
 また、ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、葉裏に薬液が十分付着するよう防除を行う。マルチ被覆の際の摘葉後に、防除を行うと効果的である。
- ウ 薬剤感受性が低下しているため、天敵を利用した防除を実施する必要があるが、その場合は、天敵類への影響が長い有機リン系、カーバメート系、合成ピレスロイド系、ピラゾール系の薬剤は使用しない。
- エ 天敵はビニル被覆後速やかに利用する。ハダニの密度が高いと天敵の効果が安定しないため、天敵を導入する前に薬剤での防除を行う。
- オ 親株用の苗や補植用の余り苗についても防除を怠らない。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (10月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
野菜共通				
ハスモンヨトウ	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> ・若齢幼虫は群生しているため、かすり状の葉を見つけ次第、除去・処分する。 ・今後の発生状況については地域間差があるため病害虫防除所のホームページを参照のこと（以下の害虫についても同様）。
オオタバコガ	やや多	やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤防除は、若齢幼虫を対象に実施する。
コナジラミ類	並	やや多	多	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、初期発生の際に防除を徹底する。
ミナミキイロアザミウマ	少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内外の除草を徹底し、本種の増殖源を絶つ。 ・防虫ネット（0.4 mm目合い以下）を展張し、定期的な薬剤散布を実施する。



農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しました。
携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



福岡県病害虫防除所